

学校のひとコマ・宮城スタディツアー（防災学習）を実施しました、

令和5年7月31日（月）から8月1日（火）にかけて、防災教育の一環として、宮城県東松島市、石巻市、名取市を訪問しました。


参加したのは、生徒28名（田無高校17名、府中高校8名、第一商業高校3名）と引率教員等10名の計38名です。

今回のスタディツアーを企画した引率教員の思いは、次の3点です。

- ・防災・災害について、他人事ではなく自分事としてほしい。（今年度は関東大震災から100年）
- ・東日本大震災とは何か、現地を訪れることで災害の一端に触れてほしい。
- ・訪問地の人々との交流や食を通して、その土地の良さをしり、ファンになってほしい。

今回参加した生徒たちは、震災当時3才から5才のため、震災のことは、あまり覚えていないようです。現地を見たことは、すべてではありません。しかし、現地に行かなければわからないこともたくさんあります。そのような中、勇気を出して参加をしてくれた生徒や送り出していただいた保護者の皆様に感謝いたします。

1 大まかな行程（移動は貸切バスを使用しました。）

7/31	東小金井駅→田無駅→石巻市立大川小学校→道の駅・上品の郷→東松島市あおい西集会所	
8/1	あおい西集会所→プレーパーク見学（Aコース）・カーシェアリングの講話（Bコース）→いしのまき元気いちば→名取市閑上（閑上中央第一団地）→かわまちテラス→田無駅→東小金井駅	

講師の方々から、様々なお話をいただきました。ここではいくつか紹介します。

- ・「大切な人のことを想定して防災を考えていますか。」
- ・「新聞やニュースで放映される、空からの写真で、災害をわかったつもりになっていませんか。」
- ・「恐怖をあおると、人は考えなくなります。防災は、助かるために行うものです。ハッピーエンドの未来を想定して、そこから逆算して、今やらなければならないこと、知るべきことに向けて行動することが防災です。」
- ・「奇跡は偶然には起こりません。災害が発生した際に適切な判断は難しいかもしれません。そのため、事前に決めておくことが大切です。」
- ・「ありふれた日常を大切に思うことが大切です。」

生徒たちは、講師の方々から、様々なお話を聞きました。人とのつながりや毎日を大切にすることを改めて確認するとともに、自分は何ができるのだろうかと考えたようです。

次ページから、訪問時の様子を紹介します。



あの日を語ろう・未来を語ろう
(大川小学校) 佐藤敏郎さん



避難所運営と震災体験の語り
齋藤幸男さん・雁部那由多さん



あおいこいのぼりプロジェクト
伊藤健人さん・鎌田司郎さん



日本一の街づくりへの取り組み
小野竹一さん



あおい地区の工夫を凝らした公園を見学。ちよっぴり運動も！



あおい西集会場前で記念撮影



石巻発、寄付車をつくるやさしい未来
～自分にできることから動き始める～
吉澤武彦さん



子どもや地域の人と一緒に作る
子どもの居場所
田中雅子さん



名取市関上では、災害公営住宅6階にある避難所兼集会所まで階段で避難する模擬体験を行いました。



関上のまちとひと・復興のあゆみ
格井直光さん



大切な命を守るためにすぐできる備え
佐竹悦子さん



身の回りの物でできる
サラダ油ランプづくり

◆食事について

1 日目の夕食は、地元のスーパーマーケットのお弁当とお刺身、白石温麺を使った汁物とお漬物でした。汁物とお漬物は、あおい地区の住民の有志の皆さんが、高校生のために下ごしらえをしてくれました。漬物を切ったり、温麺を茹でて人数分に分ける活動には、立候補した生徒4名も加わり、切り方のコツや、人数分に分けるコツ等を教えていただきながら行いました。

実は、地元のスーパーマーケット（サンショップ矢本）の鮮魚コーナーの方に、防災学習で東松島を訪問すること、引率者の思いとしては、防災学習ではない時にも家族や友人とともに東松島を訪れたいというファンになってほしいという願いを伝え、地元の良さがわかったり、交流の話のタネになる地元産のお刺身を準備していただけないか頼んだところ、ご快諾くださり、地元で水揚げされたお刺身が提供されました。こちらのわがままにも対応してくださり、感謝の気持ちでいっぱいです。

2 日目の昼食は、関上中央第一団地管理組合の有志に皆さまにより、宮城南部地域の郷土料理である「おくすかけ」がふるまわれました。具たくさんで心も温まる一品で、宮城のみなさまの温かさを感じるひと時でした。



地元の女性と一緒に活動します



地元スーパーのお刺身



関上、「おくすかけ」です。

◆生徒の感想から◆

- ・災害の被害に遭った場所が被災地であるならば、まだ被害に遭っていない場所は未災地であるという言葉が印象に残りました。意識していないところで、他人事とと思っていましたが、今回のツアーに参加して、自分事として考え、行動していこうと思いました。
- ・全ての講話を通じて、共有していたのは、人とかかわりが大切だということと感じました。街づくりについても、たくさんの方が話し合ったりして、たくさんの方が協力して、大変なことがあっても、下を向いていても誰かと支え合って、生活しています。すごいなと思いました。どこか、他人事として感じていた災害について、自分のこととして考えることができたと思いました。
- ・2日間の講話を聴いて、自分の考えが変わることを実感しました。例えば、雁部さんの話を聞き、1枚の空から写真を見て、わかったと思っていた事は、実は、実際の出来事のほんの一部でしかないことに気がつきました。

私は、このことは、災害の際だけではなく、人間についてもいえると思いました。人の行動や考えや言葉は、その時だけではありません。その人の過去があるからこそ考えや行動や言葉が生まれると考えます。その時の一つの言葉は、断片的な側面なので、その人全体を見ることにはなりません。私は、心理関係に進学したいと考えているので、新しい見方に気づかされて、よい経験をさせていただきました。スタディツアーに勇気を振り絞って参加してとても良い学びができてよかったです。